

小学6年 国語 「やまなし」

ねらい

- ・自分の興味、関心についてより深く知るために、本を使って調べることができる能力を身につける。
- ・調べたことと体験したこと、考えたことを関連させて、事実と意見を区別してまとめることができる。

学習展開（12時間）

単元計画

1. 自分で読み、内容をつかむ
2. 1をもとに学習計画を立てる
3. 「五月」「十二月」の二つの場面の内容を整理し、対比構造になっていることをつかむ
4. ★司書による授業

司書による授業の効果

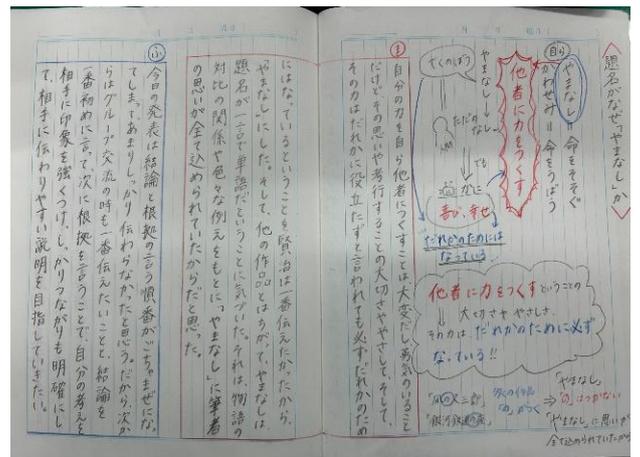
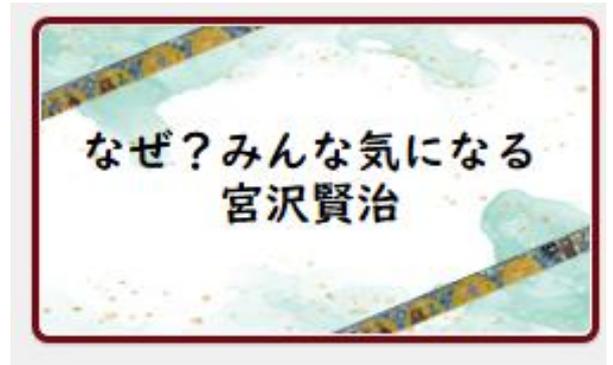
- ① 「作者と作品を関わらせて読み、解釈する」という読み方
- ② 宮沢賢治作品の魅力
- ③ 宮沢賢治の生き方
- ④ 宮沢賢治の作品

を紹介してもらうことで

- ・「イーハトーヴの夢」やほかの作品を読みたくなる
 - ・概要を理解し、イメージをすることで、読むことが苦手な児童も読みやすくなる
 - ・関連付けてもう一度「やまなし」を読み、再解釈したくなる
5. 「イーハトーヴの夢」やほかの宮沢賢治作品から、宮沢賢治の生き方や考え方を知る。
 6. 5で読み取ったことと関連付けながら、「やまなし」の主題について解釈する。
 7. 自分が「やまなし」について解釈したことをまとめる。

指導のポイント

- ・授業者と司書の打ち合わせにより、国語科の「ねらい」に到達することを目指す内容にする。
- ・教科書の「資料」と内容が重複しないようにしながらも、学習の苦手な児童が「資料」に興味を持ち、読み進められるような難易度にする。
- ・「注文の多い料理店」の「序文」が指導に役立った。



学校図書館との関わり

- ・約20分の授業の実施
- ・関連図書の教室への貸し出し